

令和4年度

事業計画

令和4年

公益財団法人 五島美術館

◆事業計画書

I. 五島美術館(公益目的事業①)

1. 展示事業

1-1. 展覧会名とその概要

(1) [館蔵] 春の優品展 ―吉祥の美―

2022 年 4 月 2 日[土]—5 月 8 日[日]

五島美術館と大東急記念文庫の収蔵品から、絵画や書跡をはじめ陶磁器・漆工などの工芸作品より「吉祥」にかかわる作品を選び展観。五島美術館の創立者・五島慶太(1882～1959)の生誕 140 年を祝い、慶太翁蒐集の古筆・歌仙絵を中心に優品約 50 点を紹介する(会期中一部展示替あり)。

特別展示予定＝国宝「源氏物語絵巻 鈴虫一・鈴虫二・夕霧・御法」

4 月 29 日[金・祝]—5 月 8 日[日]

一般 1000 円／高・大学生 700 円／中学生以下無料

休館日＝毎月曜日

(2) [館蔵] 近代の日本画展

2022 年 5 月 14 日[土]—6 月 19 日[日]

館蔵の近代日本画コレクションから、「風景表現」を中心に、橋本雅邦、小川芋銭、横山大観、川合玉堂、富田溪仙、小林古径、橋本関雪、安田靉彦、川端龍子など、明治から昭和にかけての近代日本を代表する画家の作品約 40 点を選び展観する。特集展示として館蔵の近代書跡と宇野雪村コレクションの文房具も同時公開。

一般 1000 円／高・大学生 700 円／中学生以下無料

休館日＝毎月曜日

(3) [館蔵] 夏の優品展 ―動物の饗宴―

2022 年 6 月 25 日[土]—7 月 31 日[日]

愛らしい鳥たち、ほのぼのとした牛馬、瑞々しい魚から楽しい妖怪の宴まで、五島美術館と大東急記念文庫の収蔵品から、考古をはじめ絵画や工芸、前衛書などに表されたキュートな動物のかたちを紹介する(会期中一部展示替あり)。特集展示として大東急記念文庫新収資料のなぞなぞ・茶番・判じ物など、江戸時代の本や一枚刷りも初公開。

一般 1000 円／高・大学生 700 円／中学生以下無料

休館日＝毎月曜日(7 月 18 日は開館)、7 月 19 日[火]

館内整備のため休館＝2022 年 8 月 1 日[月]—8 月 26 日[金]

(4) [館蔵] 秋の優品展 ―禅宗の嵐―

2022 年 8 月 27 日[土]—10 月 16 日[日]

鎌倉時代に本格的に伝来した禅宗は、武家の帰依を集め、後世の美術や文学の新たな基調となった。五島美術館と大東急記念文庫の収蔵品から、高僧の墨跡や語録、禅画、古写経など、国宝・重要文化財を含めた計約 50 件を一堂に展示する(会期中一部展示替あり)。特集展示として館蔵の日本陶磁コレクションも同時公開。

特別展示予定＝国宝「紫式部日記絵巻 五島本第一・二・三段」

10 月 8 日[土]—10 月 16 日[日]

一般 1000 円／高・大学生 700 円／中学生以下無料

休館日＝毎月曜日(9 月 19 日・10 月 10 日は開館)、9 月 20 日[火]、10 月 11 日[火]

(5) [特別展] 西行 ―語り継がれる漂泊の歌詠み―

2022 年 10 月 22 日[土]—12 月 4 日[日]

中世の歌人・西行(1118～1190)は、さまざまなイメージで語り継がれながら、日本の文化に多大な影響を与えてきた。世に数点しか伝わらない稀少な西行自筆の手紙をはじめ、古筆・絵画・文芸・工芸など、「西行」をテーマとした国宝 4 件、重要文化財約 20 件を含む名品約 100 点を各地の美術館・博物館・古寺や名家の秘庫から集め一堂に展観。中世から近現代に至るまで、西行が時を越えて人々の心に語りかけてきたものを探る、今までにない西行の展覧会(会期中一部展示替あり)。

一般 1300 円／高・大学生 1000 円／中学生以下無料

休館日＝毎月曜日

特別内覧会・レセプション(予定)＝2022 年 10 月 21 日[金]

(6) [館蔵] 茶道具取合せ展

2022 年 12 月 10 日[土]—2023 年 2 月 12 日[日]

展示室に当館茶室「古経楼」「松寿庵」「富士見亭」の床の間原寸模型をしつらえ、館蔵の茶道具コレクションから約 70 点を選び展示(会期中一部展示替あり)。懷石道具・炭道具のほか、小堀遠州(1579～1647)を中心とした武将や大名ゆかりの茶道具の取合せを展観する。特集展示として茶の湯の包み裂である名物裂や更紗などを同時公開。

一般 1000 円／高・大学生 700 円／中学生以下無料

休館日＝毎月曜日(1 月 9 日は開館)、12 月 25 日[日]—1 月 4 日[水]、1 月 10 日[火]

(7) [館蔵] 中国の陶芸展

2023 年 2 月 18 日[土]—3 月 26 日[日]

漢時代から明・清時代にわたる館蔵の中国陶磁器コレクション約 60 点を展観。戦国時代の計量道具から、唐三彩の壺、宋時代の砧青磁、明時代の青花・五彩まで、時代順に展示し、2000 年にわたる中国のやきものの歴史を展望する。特集展示として館蔵の刀剣コレクションも同時公開。

一般 1000 円／高・大学生 700 円／中学生以下無料

休館日＝毎月曜日

1-2. 入館者数(目標)

2022 年度の入館者数は合計で 5 万 5 千人の獲得を目標とする。このうち秋の特別展「西行」については、新型コロナ禍前の 5 年間の特別展実績(平均)を上回る 1 万 7 千人の入館を想定している。

(単位:入館者＝人、開館日＝日)

	有料	無料	計	入園者	合計	開館日	一日平均
(1) [館蔵]春の優品展 ―吉祥の美― <2022 年 4 月 2 日[土]―5 月 8 日[日]>	6,998	662	7,660	403	8,063	32	252
(2) [館蔵]近代の日本画展 <2022 年 5 月 14 日[土]―6 月 19 日[日]>	7,402	461	7,863	202	8,065	32	252
(3) [館蔵]夏の優品展 ―動物の饗宴― <2022 年 6 月 25 日[土]―7 月 31 日[日]>	3,658	547	4,205	115	4,320	32	135
(4) [館蔵]秋の優品展 ―禅宗の嵐― <2022 年 8 月 27 日[土]―10 月 16 日[日]>	5,663	475	6,138	198	6,336	44	144
(5) [特別展]西行 ―語り継がれる漂泊の歌詠み― <2022 年 10 月 22 日[土]―12 月 4 日[日]>	13,725	2,565	16,290	799	17,089	38	450
(6) [館蔵]茶道具取合せ展 <2022 年 12 月 10 日[土]―2023 年 2 月 12 日[日]>	6,430	719	7,149	169	7,318	47	156
(7) [館蔵]中国の陶芸展 <2023 年 2 月 18 日[土]―3 月 26 日[日]>	4,061	403	4,464	173	4,637	32	145
【合 計】	47,937	5,832	53,769	2,059	55,828	257	217

1-3. 付帯事業

展示事業に関連して、美術館と展示・収蔵品を全国の不特定多数の方に紹介する効果がある東急グループの「五島美術館名品集」カレンダーの制作・監修や「源氏物語絵巻」をはじめ展示・収蔵品に因んだオリジナルグッズなどの制作・監修、館内ミュージアムショップ等での販売も実施する。

2. 調査・研究・保存事業

(1) 美術品の調査・研究

美術品の調査・研究を継続し、新規収蔵品等を中心に調査を進める。より正確なデータベースを構築するため、デジタルアーカイブへの取組みを進める。

(2) 蔵書・写真の整理

蔵書および写真の整理と登録を進める。

(3) 美術品の補修

館蔵品のうちから、特に傷みの著しいもの、出陳頻度の高いものを優先し、その修理を行なう。本年度は昨年度に引き続き「本阿弥切 伝 小野道風筆」(2ヶ年計画)を修復予定。

(4) 美術品の保存

今後の保存対策のため、収蔵庫および展示室の環境測定を実施し、種々データを集める。また、収蔵庫内の収納棚の保存環境および利用時における安全性を見直し、より効率的な収納ができる保存環境を目指す。作品を保護するための包裂や箱、刀剣の鞘などを順次修理し、保存・管理の安全性を向上させる。併せて防虫・防黴のため IPM(総合的有害生物管理)を実施する。

(5) 美術品の貸出

他所の美術館・博物館への館蔵品の貸出要望に対しては、趣旨・開催期間などを十分検討し、保存上の留意をしつつ、社会教育の発展・普及の観点から貸出を許可し、出品する。

(6) 会議・学会・研修会への参加

美術品にかかわる各種会議・学会・研修会へ参加し、研究成果を発表する。

- ・全国博物館大会、全国美術館会議、私立美術館会議、美術史学会、東洋陶磁学会、漆工史学会、茶の湯文化学会、書学書道史学会、文化財保存修復学会(大会出席)。
- ・各種研究会および研修会参加(染織文化史研究会、茶書研究会、文化庁企画展示セミナー、日本書道史研究会、日本博物館協会研究会、源氏絵データベース研究会、関西中国書画コレクション研究会)。
- ・科学研究費助成事業への参加。

(7) 博物館界・学会などへの協力

当館の加入する日本博物館協会、東京都博物館協議会、東洋陶磁学会、漆工史学会、全国美術館会議、私立美術館会議などの活動に積極的に協力するとともに、各種委員会や美術普及行事、学術文化の交流に関して専門学芸員の派遣など、当館の役割を果たしていく。また、受入れ態勢の許す限り博物館学および同実習教育を実施する。

(8) ホームページ等の運営

五島美術館の公式ホームページ(URL=<https://www.gotoh-museum.or.jp/>)を充実し、インターネット上での美術館や収蔵品の紹介、展覧会の広報活動等を展開するために、コンテンツの拡充を目指す。また、館内での通信環境を再整備し、フェイスブック、ツイッターなど SNS の有効活用を促進する。

(9) 研究紀要の編纂

研究活動の成果を紀要としてまとめる。執筆者は学芸部を中心とし、資料紹介や調査報告を含めた専門性の高い論考に、美術館・文庫の活動報告を合わせた体裁とする。

(10) 日本伝統工芸展への協賛

公益社団法人日本工芸会他の主催する同展への協賛を通じ、日本における伝統工芸の健全な発展に寄与する。

(11) 国等各種公共機関・団体・大学への協力と職員の派遣

国や各種公共団体の美術教育事業、専門機関への助言、職員の派遣等、美術館で必要と認められる対外活動を行なう。

3. 普及事業

(1) ギャラリートーク(展示解説)——一般入館者対象

・[館蔵]春の優品展 —吉祥の美—

----- 2022 年 4 月 21 日[木]、27 日[水]、30 日[土]、5 月 6 日[金]の 4 回

・[館蔵]近代の日本画展

-----2022 年 6 月 2 日[木]、16 日[木]の 2 回

・[館蔵]夏の優品展 —動物の饗宴—

----- 2022 年 6 月 29 日[水]、7 月 7 日[木]、13 日[水]、20 日[水]、28 日[木]の 5 回

・[館蔵]秋の優品展 —禅宗の嵐—

----- 2022 年 9 月 1 日[木]、14 日[水]、10 月 13 日[木]の 3 回

・[特別展]西行 —語り継がれる漂泊の歌詠み—

----- 未定

・[館蔵]茶道具取合せ展

----- 2023 年 1 月 18 日[水]、26 日[木]、2 月 7 日[火]の 3 回

・[館蔵]中国の陶芸展

-----2023 年 2 月 22 日[水]、3 月 9 日[木]の 2 回

* 上記展覧会の展示品を学芸部が解説する。

(2) 茶会(当館主催)——茶の友会会員対象

・第 1 回=2022 年 11 月 10 日[木]～13 日[日]の 4 日間

・第 2 回=2023 年 3 月 16 日[木]～19 日[日]の 4 日間

* 上記茶会に使用する美術品について学芸部が解説する。

(3) 陶芸講座(当館主催)——美の友会会員対象

・第 1 回=2022 年 5 月 28 日[土]・29 日[日] 予定(定員未定)

・第 2 回=2022 年 9 月 24 日[土]・25 日[日] 予定(定員未定)

・第 3 回=2023 年 1 月 28 日[土]・29 日[日] 予定(定員未定)

(4) 美の友会月例美術講座(当館主催)―美の友会会員対象

美の友会会員を対象に下記のシリーズを、連続講座(各月 2〜3 回)として(本年度 30 回)開催する。各回ともシリーズのテーマに即した主題を掲げ、当館の収蔵品やスライド映写をまじえてわかりやすい講座を行なう。

◇特別展鑑賞シリーズⅢ「西行への旅」

西行(1118〜1190)は日本和歌史上に燦然と輝く大歌人。しかし二千首以上の和歌を遺した一方でその生涯は不明な点が多く、後代には様々な伝説が生まれ、それを題材にした美術品も多数作られた。本講座では「特別展 西行―語り継がれる漂泊の歌詠み」(2022 年 10 月 22 日〜12 月 4 日)を一層楽しむために、西行にまつわる絵画、古筆、書籍などを紹介する(8 月は休講)。〈担当＝五島美術館学芸部 佐々木佑記(第 1・4 回)・下山來夏(第 2・5 回) 大東急記念文庫学芸部 村木敬子(第 3 回)・長田和也(第 6 回)〉

- 第 1 回 2022 年 4 月 2 日[土] 国宝「一品経和歌懷紙」と伝西行の古筆
- 第 2 回 2022 年 5 月 7 日[土] 西行の旅と絵画
- 第 3 回 2022 年 6 月 4 日[土] 語り継がれた西行
- 第 4 回 2022 年 7 月 2 日[土] 金剛峯寺蔵 国宝「僧円位(西行)書状」について
- 第 5 回 2022 年 9 月 3 日[土] 西行の和歌と絵画
- 第 6 回 2022 年 10 月 1 日[土] 江戸時代に降り立った西行

◇陶磁鑑賞シリーズⅨ「名物記にあらわれる茶の湯道具」

五島美術館には茶の湯道具が約 150 件ある。この講座では、茶の湯道具のうち、名物記に記載のあるものを 1 点または 2 点とりあげ、画像で紹介し、名物記の記載、産地・制作年代・技法について現在わかる限りの情報や、その茶の湯道具にまつわるエピソードや鑑賞のポイントを解説する(第 1〜5 回は 2021 年度実施。8 月は休講)。

〈担当＝五島美術館学芸部 砂澤祐子〉

- 第 6 回 2022 年 4 月 9 日[土] 瀬戸茶入 銘 月迫と銘 一本
- 第 7 回 2022 年 5 月 14 日[土] 唐物茶入 銘 安国寺肩衝と銘 宗伍茄子
- 第 8 回 2022 年 6 月 11 日[土] 唐物文琳茶入 銘 本能寺文琳
- 第 9 回 2022 年 7 月 9 日[土] 唐物文琳茶入 銘 吹上文琳
- 第 10 回 2022 年 9 月 10 日[土] 唐物円座肩衝茶入 銘 利休円座

◇考古鑑賞シリーズⅠ「五島美術館所蔵の考古美術」

文字のない時代の「もの」を研究する学問として考古学が生まれ、発展してきた。地中から出土した「もの」の中でも美術的な鑑賞に適したものは考古美術と呼ばれ、人々に新たな発見と驚きを与えてきた。本講座では、五島美術館所蔵の作品を通して考古美術の楽しみ方を提示する(8 月は休講)。

〈担当＝五島美術館学芸部 林克彦〉

- 第 1 回 2022 年 4 月 16 日[土] 考古学とは何か
- 第 2 回 2022 年 5 月 21 日[土] 玉器と玻璃

- 第3回 2022年 6月 18日[土] 水禽埴輪
- 第4回 2022年 7月 16日[土] 国宝・金銅馬具
- 第5回 2022年 9月 17日[土] 古鏡を読む(1)
- 第6回 2022年 10月 15日[土] 古鏡を読む(2)

◇陶磁鑑賞シリーズX「名品を深読みする②」

五島美術館収蔵品から選び出された1点の名品にスポットを当て、作品を取り巻く時代背景、作品の背後にある歴史的展開、作品に対する評価の形成過程にも目を向けて「深読み」することで、その魅力を十二分に堪能する。なお本シリーズに登場する作品は、日本陶磁2点と中国陶磁2点。

〈担当＝五島美術館学芸部 田代裕一郎(第1・2回)・菅沢そわか(第3・4回)〉

- 第1回 2022年 12月 3日[土] 重要文化財 古伊賀水指 銘 破袋
- 第2回 2023年 1月 7日[土] 絵唐津四方筒向付
- 第3回 2023年 2月 4日[土] 重要美術品 白釉黒花牡丹文梅瓶 磁州窯
- 第4回 2023年 3月 4日[土] 重要文化財 五彩透彫水注(金欄手) 景德鎮窯

◇染織鑑賞シリーズXIV「ひそかに楽しむ表装の裂」

書画鑑賞の歴史は表装によって作品の魅力を引き出した美意識の鑑賞史でもある。本講座ではその裂地に焦点をあて、時代によって選び抜かれた表装裂の数々、裂地の見分け方、表装裂にまつわる物語などスライドを交えて紹介する(11月は休講)。

〈担当＝五島美術館学芸部 佐藤留実〉

- 第1回 2022年 10月 8日[土] 「破れ虚堂」一蔵の宝は滅茶苦茶に
- 第2回 2022年 12月 10日[土] 東山表具—キラキラは將軍のイメージ
- 第3回 2023年 1月 14日[土] 名物表具の見どころ—茶人は見た!
- 第4回 2023年 2月 11日[土] 表具裂鑑賞1—なかなか聞けない表具裂
- 第5回 2023年 3月 11日[土] 表具裂鑑賞2—ひそかに見分ける表具裂

◇古典籍鑑賞シリーズIV「黄表紙『御存商売物』を読む」

黄表紙は江戸時代中期に生まれた文芸。浮世絵風の絵の余白に文章を書き込んだ絵本で、大人の鑑賞に堪えうる笑いを提供している。『御存商売物』は江戸を代表する戯作者、山東京伝(1761～1816)の出世作で、擬人化した書物たちが活躍する話。本講座ではこの作品を読み進めながら、大東急記念文庫の所蔵するさまざまな江戸時代の書物を紹介する。

〈担当＝大東急記念文庫学芸部 長田和也〉

- 第1回 2022年 12月 17日[土] 発端。黄表紙に嫉妬する赤本、黒本
- 第2回 2023年 1月 21日[土] 狙われた一枚絵、遊女になった錦絵
- 第3回 2023年 2月 18日[土] 吉原細見のモデル、蔦屋重三郎
- 第4回 2023年 3月 25日[土] 結末。仲裁役は源氏物語と唐詩選

(5) 青少年向け普及講座

小学生や中学生を対象に、美術や日本文化への理解を深めるための各種普及講座を開設する。現在予定している講座としては以下の通り。

- ① 「こども美術講座 日本画を知ろう」(日程未定)
- ② 小・中学校等へ出張講義に赴く予定(日程未定)

(6) ミュージアム・コンサート

音楽を通じて、芸術・文化に触れる機会を提供し、地域住民はじめ来館者に対して美術館の楽しみ方の一面を提示する。

- ① クァルテット・リゾナンツァによる弦楽四重奏演奏会 ----- 2022 年 7 月 6 日[水]
- ② 長唄演奏会一和のこころを聴く ----- 2022 年 9 月 27 日[火]

(7) 茶室特別公開

公開日＝2022 年 5 月 25 日[水]（「館蔵 近代の日本画展」期間中）

2023 年 2 月 1 日[水]（「館蔵 茶道具取合せ展」期間中）

＊入館者を対象に、通常非公開の茶室「古経楼」「富士見亭」の解説を学芸部が行なう。

(8) 東急グループとの連携事業

東急グループとの連携事業を推進することにより、美術館や展覧会に対する理解を深める様々な機会を提供する。

- ① 特別鑑賞会「東急グループ感謝のつどい」開催への協力
- ② 東急グループ主催の社会貢献活動（とうきゅうキッズプログラム、キラリプラスカレッジ等）への協力
- ③ 東急文化村「MY Bunkamura」とのタイアップ企画の実施
- ④ 「東急ロイヤルクラブ」との連携イベントの実施
- ⑤ 東急グループ「五島美術館名品集」カレンダーの制作監修（**展示事業 1-3.参照**）

(9) 他館等との連携事業

展示内容の親和性が高い根津美術館、三井記念美術館、近隣の世田谷美術館をはじめ、他の美術館・博物館など文化施設等との連携事業を積極的に推進する。

(10) インバウンド需要への対応

インバウンド需要の回復に対応するため、今後も引き続いて館内施設やホームページの表記等の具体的対策を進めていく。

(11) 4K映像の上映再開

展示公開期間に制約がある国宝「源氏物語絵巻」の4K映像の常時上映を再開して、遠来の来館者の期待に応えていく。

以 上

Ⅱ. 大東急記念文庫(公益目的事業②)

1. 閲覧事業

(1) 図書閲覧

文学・歴史等の学術研究に資するため、大学生以上の学術研究者を対象に閲覧業務を行なう(許可制)。

(2) 展示

五島美術館の展示に協力するとともに、他館からの出陳の要請は検討の上、貸し出す。

2. 調査・研究・保存事業

(1) 図書調査

収蔵の古典籍資料調査を行なう。

(2) 図書収集

研究・閲覧に資する参考資料(辞典、叢書、全集、記録類等)や、必要な場合は古典籍資料を購入する。

(3) 研究発表

図書調査・研究活動等に基づき、書誌学、文化史学、国文学、美術史学等の研究の成果を機関誌「かがみ」その他、学術専門誌に発表する。

(4) 図書保存

- ・文庫収蔵庫内の和古書と参考書誌、図書資料等との分離収納作業を継続する。
- ・本年度も引き続き、収蔵資料の保存状態を調査し、修理・補修リストを作成する。
- ・収蔵庫内の防虫、防塵、防湿、防災には万全を期し、予防策として本年もIPM(総合的有害生物管理)を実施する。新収資料の防虫には特に留意する。
- ・不慮の災害に備え、資料の写真撮影などの副本作りを継続的に進める。本年度も『大般若波羅蜜多經』(鎌倉中期写本)等を撮影する。

(5) 図書修理

新収蔵資料の帙箱の新装、未表装資料の表装を行なう。

(6) 出版物の編集・刊行・頒布・委託出版

- ・継続刊行中である「大東急記念文庫善本叢刊中古・中世篇」の第 29 回配本第 15 巻「国史・古記録・寺誌」、第 30 回配本第 17 巻「美術」、第 31 回配本第 18・19 巻「古文書・名家筆蹟」の刊行準備をする。

- ・機関誌「かがみ」第 53 号を編集刊行する。
- ・既刊の講演録、影印本、マイクロフィルム等を頒布する。

(7) 普及

- ・各種団体(大学・研究会・図書館等)の要請による研究会、展示説明会等があれば、これに応じる。
- ・文庫刊行の出版物等を友好機関に寄贈する。また、友好機関、個人から受贈した出版物等は、閲覧研究に供するとともに、整理して保存する。
- ・各種団体等・個人から多数の撮影、出版、放映、翻印等の許可申請があるが、厳しく検討して許可する。

(8) 国等各種公共機関・団体、大学への協力と職員の派遣

国や各種公共団体の研究会等への参加、助言、職員の派遣等、文庫の事業運営上必要と認められる対外活動を行なう。

以 上

収支予算書

令和 4年 4月 1日から令和 5年 3月31日まで

公益財団法人五島美術館

(単位：円)

科 目	予算額	前年度予算額	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	[9,310,000]	[6,561,000]	[2,749,000]
特定資産運用益	[2,000]	[0]	[2,000]
公益事業収益	[105,106,000]	[118,965,000]	[△ 13,859,000]
受取補助金等	[500,000]	[2,000,000]	[△ 1,500,000]
受取寄付金	[69,038,000]	[69,528,000]	[△ 490,000]
雑収益	[54,000]	[50,000]	[4,000]
経常収益計	184,010,000	197,104,000	△ 13,094,000
(2) 経常費用			
事業費	[317,496,000]	[327,723,000]	[△ 10,227,000]
管 理 費	[31,541,000]	[32,350,000]	[△ 809,000]
経常費用計	349,037,000	360,073,000	△ 11,036,000
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 165,027,000	△ 162,969,000	△ 2,058,000
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	△ 165,027,000	△ 162,969,000	△ 2,058,000
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 165,027,000	△ 162,969,000	△ 2,058,000
一般正味財産期首残高	814,739,128	977,708,128	△ 162,969,000
一般正味財産期末残高	649,712,128	814,739,128	△ 165,027,000
II 指定正味財産増減の部			
一般正味財産への振替額	[△ 69,038,000]	[△ 69,528,000]	[490,000]
当期指定正味財産増減額	△ 69,038,000	△ 69,528,000	490,000
指定正味財産期首残高	3,563,884,905	3,633,412,905	△ 69,528,000
指定正味財産期末残高	3,494,846,905	3,563,884,905	△ 69,038,000
III 正味財産期末残高	4,144,559,033	4,378,624,033	△ 234,065,000

収支予算書

令和 4年 4月 1日から令和 5年 3月31日まで

公益財団法人五島美術館

(単位：円)

科 目	予算額	前年度予算額	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	[9,310,000]	[6,561,000]	[2,749,000]
基本財産受取利息	7,744,000	4,738,000	3,006,000
基本財産受取配当	1,566,000	1,823,000	△ 257,000
特定資産運用益	[2,000]	[0]	[2,000]
特定資産受取利息	2,000	0	2,000
公益事業収益	[105,106,000]	[118,965,000]	[△ 13,859,000]
展示事業収益	47,141,000	51,757,000	△ 4,616,000
調査研究事業収益	6,100,000	5,970,000	130,000
普及事業収益	9,820,000	14,620,000	△ 4,800,000
文庫事業収益	1,000,000	1,700,000	△ 700,000
カレンダー一収益	30,945,000	35,818,000	△ 4,873,000
売店収益	10,100,000	9,100,000	1,000,000
受取補助金等	[500,000]	[2,000,000]	[△ 1,500,000]
受取補助金その他	500,000	2,000,000	△ 1,500,000
受取寄付金	[69,038,000]	[69,528,000]	[△ 490,000]
受取寄付金振替額	69,038,000	69,528,000	△ 490,000
雑収	[54,000]	[50,000]	[4,000]
受取利息	4,000	0	4,000
雑収	50,000	50,000	0
経常収益計	184,010,000	197,104,000	△ 13,094,000
(2) 経常費用			
事業費	[317,496,000]	[327,723,000]	[△ 10,227,000]
役員報酬	5,881,000	5,881,000	0
給料	94,458,000	93,478,000	980,000
臨時雇賃金	16,097,000	15,442,000	655,000
退職給付費用	2,862,000	12,836,000	△ 9,974,000
福利厚生費	16,886,000	16,704,000	182,000
旅費	158,000	346,000	△ 188,000
交通費	152,000	202,000	△ 50,000
交際費	102,000	102,000	0
通信費	4,726,000	5,306,000	△ 580,000
減価償却費	69,288,000	69,500,000	△ 212,000
消耗什器備品費	966,000	1,556,000	△ 590,000
消耗什器備品費	1,013,000	1,253,000	△ 240,000
修繕費	4,493,000	7,000,000	△ 2,507,000
印刷製本費	2,631,000	2,000,000	631,000
宣伝熱水料	9,663,000	11,741,000	△ 2,078,000
光熱費	7,800,000	8,556,000	△ 756,000
保険料	7,605,000	7,290,000	315,000
諸謝金	896,000	896,000	0
租税公課	150,000	150,000	0
庭園税	420,000	520,000	△ 100,000
委託管理費	5,156,000	5,046,000	110,000
展覧会費	14,360,000	13,475,000	885,000
催物費	15,946,000	8,475,000	7,471,000
調査研究費	7,573,000	10,586,000	△ 3,013,000
雑費	5,900,000	5,500,000	400,000
カレンダー制作費	935,000	1,118,000	△ 183,000
シヨッ プ 原価	15,557,000	16,500,000	△ 943,000
管 理 費	5,822,000	6,264,000	△ 442,000
	[31,541,000]	[32,350,000]	[△ 809,000]

科 目					予算額	前年度予算額	増 減
役 員 報 酬					3,920,000	3,920,000	0
給 料 手 当					17,751,000	17,049,000	702,000
退 職 給 付 費					318,000	1,425,000	△ 1,107,000
福 利 厚 生 費					2,795,000	2,765,000	30,000
会 社 交 通 費					142,000	310,000	△ 168,000
旅 行 交 際 費					298,000	398,000	△ 100,000
通 信 運 賃 費					210,000	210,000	0
減 価 償 却 費					309,000	338,000	△ 29,000
消 耗 什 器 備 品 費					3,648,000	3,660,000	△ 12,000
消 耗 品 費					34,000	53,000	△ 19,000
印 刷 製 本 費					87,000	105,000	△ 18,000
光 熱 水 料 費					50,000	64,000	△ 14,000
諸 謝 金 費					395,000	379,000	16,000
雑 費					1,464,000	1,464,000	0
経常費用計					120,000	210,000	△ 90,000
評価損益等調整前当期経常増減額					349,037,000	360,073,000	△ 11,036,000
評価損益等計					△ 165,027,000	△ 162,969,000	△ 2,058,000
当期経常増減額					0	0	0
2. 経常外増減の部							
(1) 経常外収益							
経常外収益計					0	0	0
(2) 経常外費用							
経常外費用計					0	0	0
当期経常外増減額					0	0	0
当期一般正味財産増減額					△ 165,027,000	△ 162,969,000	△ 2,058,000
一般正味財産期首残高					814,739,128	977,708,128	△ 162,969,000
一般正味財産期末残高					649,712,128	814,739,128	△ 165,027,000
II 指定正味財産増減の部							
一般正味財産への振替額					[△ 69,038,000]	[△ 69,528,000]	[490,000]
受取寄付金					△ 69,038,000	△ 69,528,000	490,000
当期指定正味財産増減額					△ 69,038,000	△ 69,528,000	490,000
指定正味財産期首残高					3,563,884,905	3,633,412,905	△ 69,528,000
指定正味財産期末残高					3,494,846,905	3,563,884,905	△ 69,038,000
III 正味財産期末残高					4,144,559,033	4,378,624,033	△ 234,065,000